

平成 26 年度申請

「初級地域公共政策士」育成のための資格教育プログラム

「プログラム説明書」

「初級地域公共政策士」

プログラム名 文化プロデュースカ養成プログラム

実施機関名 京都橘大学現代ビジネス学部

序章

プログラム概要（運営・実施体制）

プログラム名	文化プロデュース力養成プログラム		
EQF レベル	レベル6		
構成科目数	12 科目	取得ポイント数	12

実施機関名	京都橘大学 現代ビジネス学部		
実施部門	現代ビジネス学部		
プログラム実施責任者	学長 細川 涼一		
プログラム担当者	現代ビジネス学部長 小暮 宣雄		
事務担当者	学務第2課長 谷川 悟史		
事務担当者連絡先	電話番号 075-574-4192	Email 2academic@tachibana-u.ac.jp	:

資格教育プログラムで設定する学習アウトカム

達成目標	6-0-1 地域社会に関する様々な理論・政策・地域活動を適切に組み合わせて活用することができる。
	知識 6-1-2 様々な政策や地域の活動を対象とする客観的な分析と評価を理解している。
	技能 6-2-1 地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用ができる。
	職務遂行能力 6-3-4 業務の遂行における管理・運営への補助的な責任を分担することができる。

1 資格教育プログラムの目的・教育目標・学習アウトカム

1-1-I. 目的・教育目標

都市や地域は、変容著しい現代社会において様々な社会的課題を抱えている。それら社会的課題を解決するために、近年では「文化」が重要な要素であると位置づけられるようになってきており、文化をプロデュースできる人材が求められている。そこで本プログラムでは、都市や地域に欠かせない文化をプロデュースできる公共人材を養成することを目的とする。

そのため、都市や地域にある文化財や文化施設、文化的景観、芸術などの文化的資源に着目し、それらを発掘または再発見する能力を育て、文化産業やまちづくり、都市観光、アーツマネジメント、文化行政などの幅広い領域から社会的課題にアプローチし、プロデュースする能力を養成する。フィールドワークを中心に、都市や地域の様々な文化的資源についての知識、そして幅広くそれらを対象として行われるまちづくりや観光、文化産業等の政策についての知識や能力を養成し、分析・評価する能力の基盤をこのプログラムで作る。

1-1-II. 学習アウトカム（序章にて記入済みのため、省略する。）

1-1-III. 資格教育プログラムで育成する人材像

地域社会の複雑な社会的課題を解決するために、文化に着目して、都市や地域にある文化財や文化施設、文化的景観、芸術などの文化的資源を発掘または再発見、分析・評価する能力を持ち、文化産業やまちづくり、都市観光、アーツマネジメント、文化行政などの幅広い領域から社会的課題にアプローチすることができ、資格習得後、地域のまちづくりや観光、アート活動などの場において公共的なマインドを持って活躍できる人材像を想定している。

1-1-IV. プログラムの広報

大学案内のパンフレットやホームページにて広報を予定している。また、本プログラムに関する授業内容や取り組みについてホームページで紹介を行う。

2 資格教育プログラムの内容

2-1-I. 資格教育プログラムに設置する科目

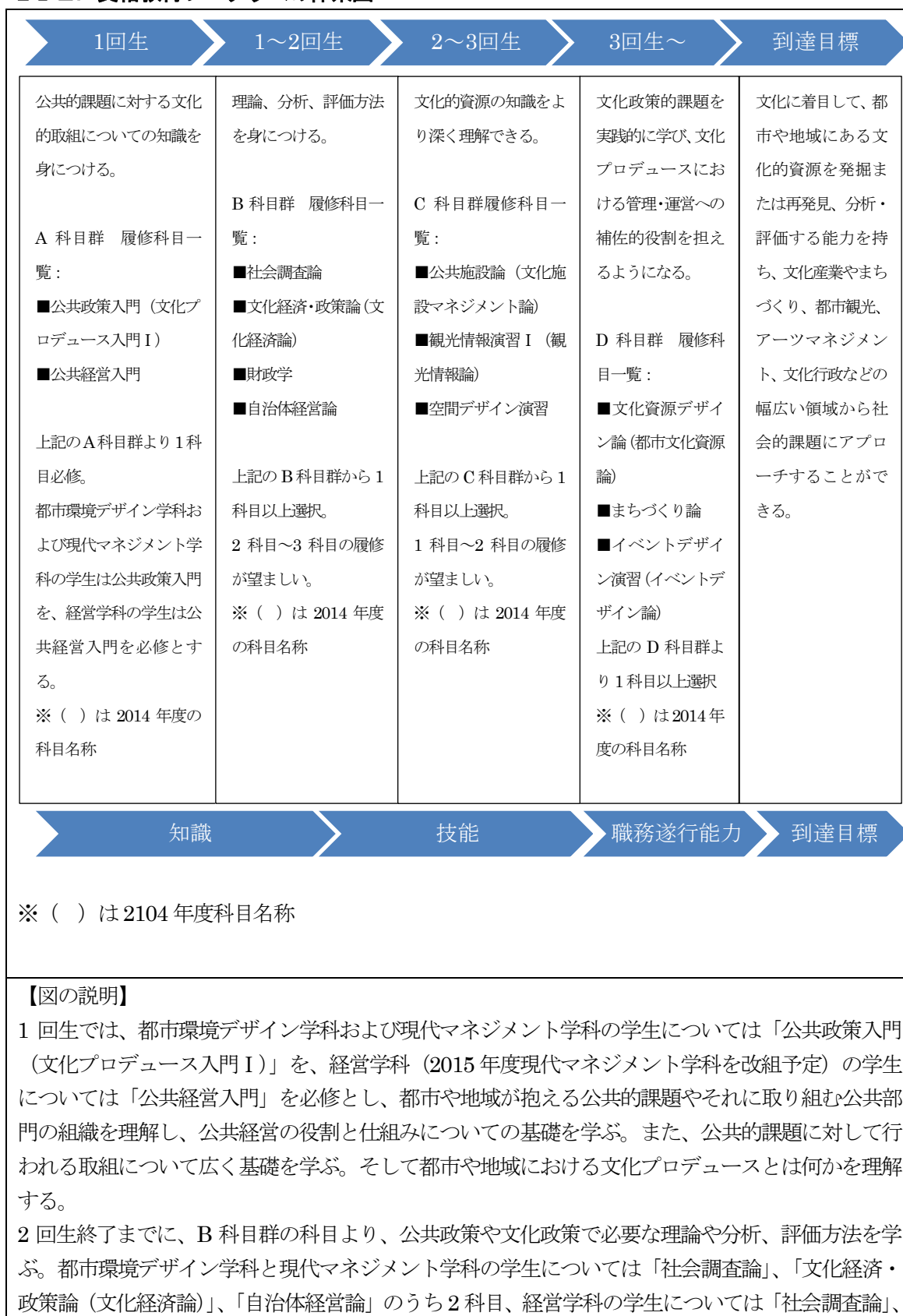
※各科目の内容については添付資料①（シラバス）を参照

※（ ）は2014年度科目名称

構成科目名		担当者名	ポイント	履修時間	開講時期	科目設定	プログラム内における構成科目の位置づけ
1	公共政策入門 (文化プロデュース 入門Ⅰ)	小暮 宣雄	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ 選択 ・共通科目 AL要素を含む科目	公共的課題を理解し、その課題に対して行われる文化的取組についての基礎を学ぶ。 *科目群A：都市デザイン学科（2014年度生：都市環境デザイン学科）、現代マネジメント学科（2014年度生のみ）必修
2	公共経営入門	阪本 崇	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ 選択 ・共通科目 AL要素を含む科目	公共的課題に取り組む公共部門の組織を理解し、公共経営の役割と仕組みについての基礎を学ぶ。 *科目群A：経営学科必修
3	社会調査論	高原 正興	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ 選択 ・共通科目 AL要素を含む科目	社会的課題を理解し、解決するために社会調査の基礎的知識と技能を身につける。 (B科目群：科目群より1科目以上選択)
4	文化経済・政策論 (文化経済論)	金武 創	2	22.5	前期・ 後期 ・通年 集中・不定期・その他	必須・ 選択 ・共通科目 ・AL要素を含む科目	芸術文化や生活文化に関する経済学的・公共政策学からの学びを通して、文化プロデュース力の基礎を身につける。(B科目群：科目群より1科目以上選択)
5	財政学	阪本 崇	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ 選択 ・共通科目 AL要素を含む科目	公共部門が行う活動を経済的側面から理解し、分析する力を身につける。(B科目群：科目群より1科目以上選択)
6	自治体経営論	阪本 崇	2	22.5	前期・ 後期 ・通年 集中・不定期・その他	必須・ 選択 ・共通科目 AL要素を含む科目	地域住民と自治体が協働する自治体の経営についての理解とその活動やそれを担う主体との関係を把握し、分析する力を身につける。(B科目群：科目群より1科目以上選択)
7	観光情報演習Ⅰ (観光情報論)	谷口 知司	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ 選択 ・共通科目 AL要素を含む科目	観光資源の再評価と発掘ならびに、それらを情報資源化するための有力な知識や技術、公開、発表する技能を身につける。(C科目群：科目群より1科目以上選択)

8	公共施設論 (文化施設マネジメント論)	笠井 敏光	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目 AL要素を含む科目	文化を扱った公共施設のマネジメントや活用方法を理解する。(C科目群:科目群より1科目以上選択)
9	空間デザイン演習	井上 信太	2	22.5	前期・ <input type="checkbox"/> 後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目 AL要素を含む科目	地域における複雑な空間を、文化を用いて活用しプロデュースする技能を身につける。(C科目群:科目群より1科目以上選択)
10	文化資源デザイン論 (都市文化資源論)	木下 達文	2	22.5	<input type="checkbox"/> 前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目 <input type="checkbox"/> AL要素を含む科目	多様な文化的資源の魅力を発掘・発見する目を養い、プロデュースする能力を実践的に養成する。(D科目群:科目群より1科目以上選択)
11	まちづくり論	織田 直文	2	22.5	前期・ <input type="checkbox"/> 後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目 <input type="checkbox"/> AL要素を含む科目	観光をはじめとする文化産業や文化政策を含む広義の「まちづくり」の中で文化プロデュース力を養成する。(D科目群:科目群より1科目以上選択)
12	イベントデザイン演習 (イベントデザイン論)	小暮 宣雄	2	22.5	前期・ <input type="checkbox"/> 後期・通年 集中・不定期・その他	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目 <input type="checkbox"/> AL要素を含む科目	文化的資源を活用したイベント企画の手法を学び、文化政策の実施技能やその応用方法、心構えなど職務遂行にあたっての文化プロデュース能力を獲得する。(D科目群:科目群より1科目以上選択)

2-1-II. 資格教育プログラムの体系図



「財政学」、「自治体経営論」の3科目を履修することが望ましい。

そして2～3回生にかけて、C科目群の科目より、A科目群とB科目群で学んだ知識と技能を用いて、文化的資源を用いた取り組みや活用方法を理解し、適用することができる能力を身につける。都市環境デザイン学科と現代マネジメント学科学生については「公共施設論（文化施設マネジメント論）」、「観光情報演習Ⅰ（観光情報論）」、「空間デザイン演習」から2科目、経営学科の学生については「公共施設論」の1科目を履修することが望ましい。

3回生以降では、今まで身につけた知識や能力をもとに、D科目群でまちづくりや文化産業、アーツマネジメント等の分野から文化政策的課題に実践的に取り組み、文化プロデュースにおける補佐的な役割ができる能力を身につける。

そして、文化プロデュースに関する様々な理論や政策、運営方法を適切に活用することができることを到達目標とする。

都市環境デザイン学科と現代マネジメント学科の学生については「文化資源デザイン論（都市文化資源論）」、「まちづくり論」、「イベントデザイン演習（イベントデザイン論）」から1科目を、経営学科の学生については「まちづくり論」の1科目を履修することが望ましい。

2-1-III. アクティブラーニング (AL) 要素を含む科目の説明

科目名：文化資源デザイン論 (都市文化資源論) 担当者：木下 達文

本授業では、協同学習の手法や KJ 法を取り入れ、文化概念あるいは地域における文化資源とは何かについての基礎学習を授業の前半に行う。また、フィールドワークとして、びわ湖ホールのアートイベントに参加・見学し、スタッフとしてイベント運営に参加し、文化プロデュースの事例を学ぶ。

授業の後半では、グループ単位で文化資源に関わる企画を出すワークショップを、KJ 法を利用しながらプランニングワークを行い、コンペティションを実施し、事業企画のテーマを決定する。決定したテーマについて基礎研究を行うとともにプレゼンテーションを実施する。また外部専門家からのレクチャーを受ける機会を設ける。最終的に、資源に関する情報収集を行い、テーマに関する地域の文化資源を発見・発掘し、オリジナル情報を取得するためにグループ単位で現場にてヒアリング調査を行う。その情報を整理し HP 等のコンテンツを制作し、学外へ情報の発信を行う。このような活動を通じて、文化資源について知るだけでなく地域について深く考え、文献や情報の調べ方を学び、原稿の作成、調査の基礎、学生同士や地域とのコミュニケーション、地域ブランド、デジタルコンテンツの編集などについて学ぶ。

※ () は 2014 年度科目名称

科目名：まちづくり論 担当者：織田 直文

本授業では、「まちづくり」の基礎となるハード面としての空間認識、単位、住宅・建築、都市計画の基本事項を住宅見学やまち歩き等のフィールドワークを通して学習する。

また、観光をはじめとする文化産業等の文化政策、福祉のまちづくりなどのソフト面の基本事項を京都市山科区の商店街や清水焼団地での活動等を中心に事例を用いて学習する。実践的学習として、京都市山科区を中心にし、フィールドワークを行う予定である。現地を見学し、聞き取り調査や地域の文化的活動やイベント等への参加から情報収集を行い、その結果をまとめる。

そして、それらが抱える活動の問題や課題を解決するような提案、地域の魅力をより引き出すような地域イベントまたは観光ツアーなどの企画立案を行うワークショップを実施し、プレゼンテーションを行う予定である。これらの活動を通じて、まちづくりプロデュース力を身につける。

科目名：イベントデザイン演習（イベントデザイン論）

担当者：小暮 宣雄

本授業では、文化的資源を活用し、イベント企画の手法を活かした、障害者、アーティスト、アーツマネージャー、地域住人、学生が参加する、一般の紙芝居に音楽やダンス、芝居などの実演芸術領域をも組み合わせ、ユニークな芸術様式を開発してきた、山科区を拠点に活動をしている任意団体「めくるめく紙芝居（MEK と略す）」という場に見学・参加を行い、フィールドワークを実施する。

はじめの段階では、MEK が実施するワークショップに参加者として、次の段階として、準備や運営の補助（資材調達、会場設営、広報・宣伝、記録、MEK 参加者の作品創作のサポート等）というスタッフの立場として MEK に携わる。アーティストやワークショップ参加者へのヒアリング等、フィールドワークを通して調査したことをまとめる。そして、「障害者とアート」や「地域とアート」についての理解を深め、学生同士でディスカッションを行う。調査した結果をもとに、障害者とアートを結びつけるため、まちの人たちのアーツを通じた交流・繋がりを高めるためのワークショップをグループ単位で企画・実施を行う予定である。

※（ ）は2014年度科目名称

2-2- I. 教育・指導方法の特徴

本プログラムでは、下記、2つの特色要素を設定する。

1. 文化資源発見力

文化についての概念および文化財や文化施設、文化的景観、芸術等の文化的資源についての歴史や特徴、魅力を理解した上で、それらを自分の力で発見・発掘できる力を養成する。

2. 他者理解力

文化や地域、社会的背景が異なる多様な人々への思いやりや寛容な心を持ち、コミュニケーションを通じて他者の文化や行為および価値の意味を理解することができる力を養成する。

2-2-II. 学習アウトカム・教育要素・科目の相関表

		資格教育プログラムで設定する学習アウトカム			
		知識 (6-1-2)	技能 (6-2-1)	職務遂行能力 (6-3-4)	
教育要素	基本要素	情報把握力	<ul style="list-style-type: none"> ■文化経済・政策論 (文化経済論) ■財政学 ■自治体経営論 	<ul style="list-style-type: none"> ■公共経営入門 ■財政学 ■自治体経営論 	<p>職務遂行能力が獲得できる科目は、下記、3つである。</p> <p>1. 文化資源デザイン論 (都市文化資源論) テーマに対する総合的な研究をチーム別に実施し、現地調査を行い、報告書やコンテンツ編集をし、課題解決のためのプランを考える。</p> <p>2. まちづくり論 まちづくりについて学び、実践的学習として、まちづくりをプロデュースする、地域イベントや観光ツアーの企画実施を行う。</p> <p>3. イベントデザイン演習 (イベントデザイン論) 文化イベントフィールドの探訪や聞き取りなどの調査を実施し、ワークショップの準備や運営の補助を行い、学生自らがワークショップ等の企画・実施を行う。</p>
		分析企画力	<ul style="list-style-type: none"> ■公共政策入門 (文化プロデュース入門Ⅰ) ■公共経営入門 ■文化資源デザイン論 (都市文化資源論) 	<ul style="list-style-type: none"> ■文化経済・政策論 (文化経済論) ■観光情報演習Ⅰ (観光情報論) ■空間デザイン演習 ■まちづくり論 	
		実践力 (AL要素を含む科目)	<ul style="list-style-type: none"> ■文化資源デザイン論 (都市文化資源論) ■まちづくり論 ■イベントデザイン演習 (イベントデザイン論) 	<ul style="list-style-type: none"> ■文化資源デザイン論 (都市文化資源論) ■まちづくり論 ■イベントデザイン演習 (イベントデザイン論) 	
	特色要素	文化資源発見力	<ul style="list-style-type: none"> ■公共政策入門 (文化プロデュース入門Ⅰ) ■公共施設論 (文化施設マネジメント論) 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光情報演習Ⅰ (観光情報論) ■公共施設論 (文化施設マネジメント論) ■空間デザイン演習 	
		他者理解力	<ul style="list-style-type: none"> ■公共政策入門 (文化プロデュース入門Ⅰ) ■社会調査論 ■文化経済・政策論 (文化経済論) 	<ul style="list-style-type: none"> ■社会調査論 ■観光情報演習Ⅰ (観光情報論) ■空間デザイン演習 	

※ () は 2014 年度科目名称

2-3. 対象とする学習者と開講形態

文化プロデュース力養成プログラムが対象とする学習者は、本学の現代ビジネス学部生、およびそれと同等以上の能力があると現代ビジネス学部が認める者（科目等履修生）とする。

また、現代ビジネス学部では、当該学部所属の「現代マネジメント学科」を2015年度4月より「経営学科」に改組する予定である。経営学科は、前身である現代マネジメント学科とはカリキュラムが異なり、資格教育プログラム関係科目が「公共経営入門」、「社会調査論」、「財政学」、「自治体経営論」、「公共施設論」、「まちづくり論」の6科目しか開講されない。経営学科の本資格取得希望者が上記6科目のうち1科目でも不合格となった場合、その時点で資格取得が不可能となることから、学生の申請により教務委員会の審議を経て、上記6科目以外の本資格関係科目を卒業要件単位に含まれない随意科目として受講可能とする。

2-4. 学習者への周知

履修の手引きに本資格について掲載、また、本プログラムのパンフレットを作成し、それらをもとに本資格の説明会を学内で実施することで学習者への周知を行う。

今年度4月に対象となる学生へ向けてガイダンス開催の周知を、本学ポータルサイトでのメッセージ配信やチラシ掲示で行い、資格取得希望者を集めてガイダンスを開いた。この時点では新制度の内容が固まっていなかったため、ガイダンスでは今後変更となることを前提として、旧制度である第1種プログラムの内容をベースに目的や教育目標、学習アウトカム、開講科目、資格教育プログラムの修了要件、成績評価方法等について、履修の手引き（添付資料②）とパンフレット（添付資料③）を使って説明した。

また、9月にもポータルサイトでのメッセージ配信やチラシ掲示にて、本資格プログラムについてのガイダンス開催を案内し、後期受講登録訂正期間中（9/22～27）に資格取得希望者へ説明を行う。9月のガイダンスでは新制度である初級地域公共政策士の教育プログラムの内容をベースに、資格の特徴やプログラムの特徴、目的、教育目標、学習アウトカム、開講科目、資格教育プログラムの修了要件、成績評価方法、1-1-Ⅲで述べた育成する人物像などについて履修の手引きと新しいパンフレット（添付資料④）を用いて説明を行う予定である。

3. 学習効果の測定

3-1-I. 成績評価方法と学習者への明示

成績評価方法については、履修の手引き（添付資料⑤）やHPに明示しているシラバス（添付資料①）で明文化している。

本学の成績評価に準じて、60点以上が合格、59点以下が不合格となり、点数によってS～Dで評価される。

成績評価の基準は、①試験、②小テスト、③授業中課題、④授業中発表等、⑤参加度の5つあり、それぞれ点数の配分が科目ごとに定められており、シラバスに記載されている。

3-1-II. ポイント認定の基準

3-1-Iの成績評価方法を踏まえて、2014年度に履修する科目については60点以上の点数を獲得できた場合にポイント認定を行う。ただし、2015年度からはグローバル人材資格のプログラムを実施する予定であるため、グローバル人材資格の基準に統一し、70点以上の点数を獲得できた場合にポイント認定を行う。

3-2. 外部機関との連携と評価

該当なし

3-3-I. 学習アウトカムを評価する基準と方法

機構の推奨モデルを使用する。

事前に資格取得希望者は登録を行い、ポートフォリオを作成する。プログラム終了後、プログラム受講者に対してアンケートを実施し、担当事務局が集計の上、レーダーチャートの作成を行って教育効果の把握を行う。

なお、プログラム受講者によるポートフォリオの作成は2014年度後期より導入する。

3-3-II. 学習アウトカムの評価結果の活用

アンケートを基に作成したレーダーチャートから得られた教育効果をとりまとめ、資格教育プログラム科目担当の専任教員と事務局（教務部学務第2課）で構成される運営委員会において、課題の洗い出しを行い、改善策について検討・実施する。

また、本学において初級地域公共政策士プログラムを展開している現代ビジネス学部の教授会において、運営委員会で検討された内容を報告の上、今後の展開について議論を行い、学部内での当該プログラムの位置づけを勘案しながら、教育プログラムの改善について検討する。

4. 資格教育プログラムの管理・運営体制

4-1. 管理・運営体制

資格教育プログラムの運営委員会は、当該プログラム科目担当の専任教員と、当該プログラム担当事務局の教務部学務第2課で構成されており、プログラム内容の検討・決定・実施を担う運営の核となる組織である。また、当該プログラムに係る自己点検・評価、FDは、当該プログラムを展開している現代ビジネス学部の教授会を基礎組織として実施しており、この教授会の幹事機能・事務局機能は教務部学務第2課が担当している。このように学務第2課長および課員が当該プログラムの事務局として体制の中に組み込まれ、事務職員がのコーディネーター役を運営委員となる教員とともに担っている。

4-2. 科目内容の点検・改善

運営委員会では、定期的に教員から担当科目について状況報告する場を設け、委員会内で情報共有を図り、個別科目の課題を洗い出し、改善策について検討する。また、当該プログラム全体についても、個別科目の現状を鑑みて、その趣旨に沿うものであるか、不足する要素はないか等、科目構成のバランスを点検し、より充実した内容となるよう改善策を検討・実施する。

現代ビジネス学部教授会では、定期的に当該プログラムの取組内容や運営委員会での検討内容を報告し、学部内での当該プログラムのあり方を勘案しながら今後の展開について議論し、改善策を検討する。

4-3. 学習者からの異議申立

本学では通知された成績について「成績疑義」という照会制度があり、不合格科目の結果について疑義を提示し、再確認を求めることができる（添付資料⑤）。なお、成績疑義の照会期間はその都度定められ、公示される。（通常は成績通知日の翌営業日から3日間）

資格教育プログラムに関する科目の成績疑義照会を申請する場合は、学生は「成績疑義照会申請書」記入し、教務部学務第2課に提出する。受け付けた成績疑義照会は、学務第2課より科目担当教員へ問い合わせ、成績評価について再確認を求める。再確認の結果は学務第2課より学生へ伝え、必要な場合は成績評価の訂正を行う。

5 教員及び講師

5-1 教員及び講師の構成

平成 24 年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」採択事業「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」の取り組みに携わる教員を中心に構成している。その取り組みを通して開発した教育方法を取り入れた科目を中心に、「文化」や「プロデュース」に関する知識と技能を身につけることができ、「公共政策」や「文化政策」の知識や能力を養成できる科目の展開を可能としている。

また、従来の講義形式で行うだけでなく、現場の見学や視察、グループディスカッション、ワークショップ、体験型の学習、そしてフィールドワークを取り入れた授業を実施する教員および講師で構成することにより、アクティブラーニングの要素を付加した教育プログラムとしている。

5-2 教育及び講師に関する指導能力の説明

職名	種別	氏名	ふりがな	性別	年齢	担当科目目名 (ポイント数)	担当科目に関連する学歴、学位、資格、実務経験等を説明して下さい。
教授	第1号	小暮 宣雄	こぐれ のぶお	男	59	公共政策入門〈文化プロデュース入門Ⅰ〉(2ポイント) イベントデザイン演習〈イベントデザイン論〉(2ポイント) 計4ポイント	専門研究領域：文化政策学、アーツマネジメント学、地方自治論、地域公共政策論 東京大学法学部第二類（公法コース）卒業 自治省 職員（昭和53年4月～平成13年3月） 京都橘女子大学文化政策学部 助教授（平成13年4月～平成16年3月） 京都橘大学文化政策学部 教授（平成16年4月～平成20年3月） 京都橘大学現在ビジネス学部 教授（平成20年4月～現在に至る）
教授	第1号	阪本 崇	さかもと たかし	男	43	公共経営入門(2ポイント) 財政学 (2ポイント) 自治体経営論(2ポイント) 計6ポイント	専門領域：文化経済学、教育経済学、公共政策 京都大学大学院経済学研究科経済政策学専攻修士課程修了、経済学修士 京都大学大学院経済学研究科経済政策学専攻博士後期課程修了、経済学博士 京都橘女子大学文化政策学部文化政策学科 講師（平成13年4月～平成17年3月） 京都橘大学文化政策学部文化政策学科 助教授（平成17年4月～平成20年3月） 京都橘大学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 准教授（平成20年4月～平成22年3月） 京都橘大学現代ビジネス学部現代マネジメント学科 准教授（平成22年4月～平成26年3月） 京都橘大学現代ビジネス学部現代マネジメント学科 教授（平成26年4月～現在に至る）

教授	第1号	高原 正興	たかはら まさお き	男	64	社会調査論 (2ポイント) 計2ポイント	<p>専門研究領域：社会学</p> <p>京都大学大学院文学研究科博士課程社会学専攻単位取得後退学京都大学 研修員 (昭和54年4月～昭和56年3月)</p> <p>鹿児島女子大学 (現志学館大学) 文学部 講師 (昭和56年10月～昭和60年3月)</p> <p>京都府立大学文学部 助教授 (昭和60年4月～平成9年3月)</p> <p>京都府立大学福祉社会学部 教授 (平成9年4月～平成20年3月)</p> <p>社会学博士 (立命館大学、平成15年3月)</p> <p>京都府立大学公共政策学部 教授 (平成20年4月～平成24年3月)</p> <p>京都橘大学現代ビジネス学部 教授 (平成24年4月～現在)</p>
准教授	第1号	金武 創	かねたけ はじめ	男	47	文化経済・政策論 (文化経済論) (2ポイント) 計2ポイント	<p>専門研究領域：文化経済学、財政学</p> <p>京都大学大学院経済学研究科現代経済学専攻修士課程修了、経済学修士</p> <p>京都大学大学院経済学研究科経済政策学専攻博士後期課程修了、経済学博士</p> <p>社団法人地域問題研究所 研究員 (平成元年10月～平成5年3月)</p> <p>京都橘女子大学文学部専任講師 (平成10年9月～平成13年3月)</p> <p>京都橘大学文化政策学部 助教授 (平成13年4月～平成20年3月)</p> <p>京都橘大学現代ビジネス学部 准教授 (平成20年4月～現在)</p>

教授	第1号	谷口 知司	たにぐち ともじ	男	59	観光情報演習Ⅰ〈観光情報論〉(2ポイント) 計2ポイント	専門研究領域：観光文化論、観光情報論、文化情報学、教育学 東北大学大学院教育情報学教育部博士前期課程修了、修士(教育情報学)博士(文化政策学) 岐阜女子大学文学部観光文化学科 助教授(平成11年4月～平成16年3月) 岐阜女子大学文学部文化情報メディア学科(平成17年4月から学部改組「岐阜女子大学文化創造学部」) 教授(平成16年4月～平成20年3月) 京都橘大学現代ビジネス学部(平成20年4月～現在)
教授	第1号	笠井 敏光	かさい としみつ	男	58	公共施設論(文化施設マネジメント論)(2ポイント) 計2ポイント	専門研究領域：考古学・博物館学・市民文化論・文化政策学・生涯学習論 大阪大学大学院言語文化研究科博士課程単位取得退学、言語文化学修士(大阪大学) 京都橘大学大学院文化政策学研究科博士課程単位取得退学、文化政策学修士(京都橘大学) 博物館学芸員資格、社会教育主事資格 大阪府羽曳野市職員(社会教育課、文化財保護課、市民大学課、生活文化情報センター)(昭和54年4月～平成18年3月) 株式会社アステム(指定管理者として、大東市立生涯学習センター・総合文化センター・歴史とスポーツふれあいセンターの館長)(平成18年4月～平成25年3月) 大阪国際大学 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 教授(平成25年4月～現在に至る)

非常勤講師	第2号	井上 信太	いのうえ しんた	男	47	空間デザイン演習 (2ポイント) 計2ポイント	<p>京都精華大学美術学部デザイン学科ビジュアル・コミュニケーションコース卒業</p> <p>大阪府主催の ART-EX 芸術家交流事業にてドイツに滞在制作、個展 (平成10年1月~3月)</p> <p>京都精華大学美術学部映像コース 非常勤講師 (平成10年4月~現在に至る)</p> <p>中国内蒙古にて映像作家前田真二郎と羊飼いのプロジェクト 2001 を制作 (平成13年)</p> <p>バリ島ウブドにて BALI-KYOTO PROJECT:羊飼いのプロジェクト in Bali を制作 (平成19年)</p> <p>映像作家前田真二郎と羊飼いの物語 [新宿 2009] を制作 (平成21年)</p> <p>上海にて映像集団「新視角」と羊飼いのプロジェクト in 安亭老街を制作 (平成22年)</p> <p>京都精華大学デザイン学部イラストレーション 非常勤講師 (平成21年4月~現在に至る)</p> <p>MuDA(パフォーマンス集団) ジェネラルマネージャ、舞台美術 (平成22年8月~現在に至る)</p> <p>京都橘大学 現代ビジネス学部 非常勤講師 (平成23年4月~現在に至る)</p> <p>ブルガリアのソフィアで Bird House Project 2013 をディレクション (平成25年)</p>
-------	-----	-------	----------	---	----	----------------------------	--

教授	第1号	木下 達文	きのした たつふ み	男	49	文化資源デザイン論(都市 文化資源論)(2ポイント) 計2ポイント	専門研究領域:文化政策、文化資源論、文化施設マネジメント論、展示メディア論 成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻博士前期課程修了、文学修士 慶応大学アートマネジメント・アートプロデュース講座、受講生 東京都港区教育委員会社会教育課文化財係、港郷土資料館文化財保護 調査員 (平成2年4月～平成12年6月) 株式会社トータルメディア開発研究所 勤務(平成2年4月～平成12年6月) 京都橘女子大学文化政策学部 講師(平成13年4月～平成17年3月) 京都橘大学文化政策学部 准教授(平成17年4月～平成20年3月) 京都橘大学現代ビジネス学部 准教授(平成20年4月～平成26年3月) 京都橘大学現代ビジネス学部 教授(平成26年4月～現在に至る)
教授	第1号	織田 直文	おだ なおふみ	男	61	まちづくり論(2ポイント) 計2ポイント	専門研究領域:まちづくり政策、文化政策、地域計画 福井大学工学部建設工学科 卒業 1級建築士資格 財団法人滋賀総合研究所 研究員(昭和55年4月～平成4年3月) 滋賀文化短期大学生活文化学科 助教授(平成4年4月～平成6年3月) 工学博士(京都大学、平成5年11月) 滋賀文化短期大学生活文化学科 教授(平成6年4月～平成12年3月) 京都橘女子大学文化政策学部 教授(平成13年4月～平成20年3月) 京都橘大学現代ビジネス学部 教授(平成20年4月～現在に至る)

※〈 〉は2014年度科目名称

6 教育プログラムの特徴

6-1 資格教育プログラム概要

このプログラムでは、都市や地域に欠かせない文化をプロデュースする能力を養成することを目的とする。都市や地域にある文化財や文化施設、文化的景観、芸術などの文化的資源に着目し、それらを発掘または再発見する能力を育てる。また、文化や地域、言語が異なる他者に寛容になり、多様性を受け入れることができる力を身につける。

そして、文化産業やまちづくり、都市観光、アーツマネジメント、文化行政などの幅広い領域から社会的課題にアプローチし、プロデュースする能力を養成する。フィールドワークを中心に、都市や地域の様々な文化的資源についての知識、そして幅広くそれらを対象として行われるまちづくりや観光、文化産業等の政策についての知識や能力を養成し、分析・評価する能力の基盤をこのプログラムで作る。

6-2 特色ある取り組み

少子高齢化による人口構造の変化や地域間格差の拡大、地域コミュニティの希薄化、そして京都特有の伝統産業の振興など、都市や地域は、変容著しい現代社会において様々な社会的課題を抱えている。

こうした社会的課題に対して、近年、「文化」が重要な要素と位置付けられるようになってきており、社会における文化的な価値を見つめ直し、都市や地域にある文化的資源を、文化産業やまちづくり、都市観光、文化産業、アーツマネジメント、文化行政などの視点からアプローチしていく必要がある。それは、「文化」が、人間が創ってきたものであり、これからも創りつづけることが人間社会にとって、必須ビタミンであり、社会関係を円滑にし、社会を元気づけることに寄与する、他ではなしえない、独自の社会的役割を持っているからである。

本学の資格プログラムでは、このような考えのもと、文化についての概念、そして文化財や文化施設、文化的景観、芸術等の文化的資源についての歴史や特徴といった知識を身につけ、自ら文化的資源を発見・発掘できる力を養成する。

実践的学習を行う科目では、「現場」に出て、ヒアリング調査など、フィールドワークを行う。

文化資源デザイン論では、学生自らが現代産業や多様な地域を見つめながら、京都の文化的な伝統産業の振興などの社会課題の基礎研究を行うとともに、自らが志向する事業企画のプランニング段階から実施し、最終的には1つの完成した成果をプロデュースする予定である。

まちづくり論では、京都市山科区の商店街や清水焼団地を中心にし、フィールドワークを

行う予定である。地域の魅力をより引き出すような地域イベントまたは観光ツアーなどの企画立案を行うワークショップを実施し、プレゼンテーションを行う予定である。

そして、イベントデザイン演習では、めくるめく紙芝居プロジェクトという企画に携わることで、障害者をはじめとする地域の人々の文化的な力を発見し、多彩なアーツ表現ができるワークショップの場を企画・実施し、地域社会の繋がりを広げコミュニティ意識を深めることについて、実践的学習を行う。

このようにまちづくりや観光、文化産業、アーツマネジメント等の分野から、都市や地域の様々な文化的資源を対象にアプローチし、文化をプロデュースする力を養成する。